

受験生の心の中をのぞいてみた

受験を経験した筆者もそうでしたが、受験期は些細なことで心が揺れ動きます。そんな受験を間近に控えた我が子へのサポート・声掛けは本当に難しい!どうしたらいいの?と悩んでいる保護者の方もおられるのではないのでしょうか。

この記事では、現役の神戸大生にアンケートをとり、受験期に保護者にしてもらってうれしかったこと、嫌だったことをまとめてみました!また、神戸大生の保護者から、受験期を控えた子どもをもつ保護者の皆さんに向けてのメッセージも載せています。

★保護者にしてもらって嬉しかったこと

本当にたくさんの意見があったのですが、紙面上では全部紹介できないので、よく挙げられていた5つを紹介したいと思います!

その1. 励ましの言葉

どう励ましてほしいかは人それぞれだと思います。ただ、自分が志望校を諦めかけたときや模試の結果等でよくよしているときに、我が子を信じているからこそ言える、**根拠のない自信にあふれた言葉**が、案外子どもの背中を押すこともあります。

その2. 干渉しすぎず、ただ自分を尊重してくれたこと

我が子を心配し、何かしらの選択肢を示したくなる気持ち、わかります…!でも、ただ見守ってくれることが、子どもにとってありがたいことであったりするのです。実際、「模試の成績について何も言わないでいてくれて楽だった」という声が多数見受けられました。そのように干渉しすぎず、自分の判断を信じて**普段と変わらないように話しかけてくれる**ことが、孤独や不安に襲われがちな受験生にとってはうれしかったです。

その3. 食事・生活面のサポート

「風邪をひかないように、体に優しいものを作ってくれた」「夜などに軽食を用意してくれた」「塾の日は土日でも朝からお弁当を作ってくれた」といった回答が見受けられました。また、食事以外でも、毎朝起こしてくれることや、静かな環境をつくってくれること、塾の送り迎えをしてくれたことなど、勉強とは直接関連しませんが、このような**何気ないサポート**が、子どもにとっては大きな支えになります。

その4. 金銭的サポート

この金銭的なサポートというのは、塾の授業料や参考書が多く挙げられていました。「**お金のことは気にしないでね**」という言葉のおかげで、より自分の受験勉強に集中できたという声が多く見受けられました。

その5. 気持ちの共有、相談に乗ってくれたこと

「別にアドバイスをくれるわけではないけれど、自分の長い愚痴にただうなずいてくれるだけでうれしかった」「共通テスト後、精神的にしんどかった時に受験校をどうするか一緒に話し合ってくれた」といった声がありました。気持ちに寄り添ってくれたり、親身に相談に乗ってくれたりすることが心の安定につながります。また、「受験合格後に、母が泣いていたときはうれしかった」という声もありました。自分と同じ気持ちを共有してくれていたという実感は、うれしいものですね。また、普段は干渉しすぎず、暗かったり悩みを打ち明けたりした時に話を聞いてくれるくらいの距離感が楽だと感じる受験生も多いです。

★保護者にされて嫌だったこと

ここからは少し、心が痛くなるような記述が続きます。しかし、もしかしたら我が子も同じことを思っているのかもしれないという気持ちを持ち、目を背けずに読んでいただきたいです。

その1. 志望校・勉強・結果等の口出し

自分の勉強計画や模試で出る偏差値についてあまり詳しく知らないのに、「この大学にした方が良い」や「今のままじゃだめじゃない？」などと言われることを不快に感じるようです。「このままじゃいけないのは自分が一番わかっている!」という声もありました。また、塾で夜遅くまで自習して帰ってきた際に、「早く帰って来なさい」と注意されることも不快な言葉として挙がっていました。心配してくれている気持ちはありがたいのですが、一人ひとりに合った勉強スタイルがあるので、そこは見守ってくれるとうれしいですね。

その2. 志望校を言いふらすこと

これは他人にはもちろんのこと、親戚にも言ってほしくなかったという声がありました。自分の志望校を身近な人以外に知られることでプレッシャーを感じ、過度な期待をもたれているような気持ちになって、つらくなることもあります。

その3. 的外れな励ましや声掛け

ただ愚痴を聞いてほしかっただけなのに、反論やアドバイスをされたり、周りの子と比較しながら話をされたりすることがつらかったという声がありました。『保護者にしてもらって嬉しかったこと』にもありましたが、子どもはただ気持ちに共感してほしいという思いで悩みを話していることも多いです。

その4. 家庭内で問題があったこと

この問題は具体的に言うと、両親の不仲や、兄弟・姉妹の問題です。受験以外のことも悩みの1つになっていたという声が少なくありませんでした。直接的なサポート・声掛けも大事ですが、その子自身が居心地よく感じる家庭環境を整えておくことも、心の安定につながるようですね。

神戸大生の保護者からのメッセージ

- ・どういう状況でも応援する、味方だよと伝え、サポートする事が大切だと思います。子供第一になりそうですが、自分自身も強く持って、家庭も大事にしてあげてください。
- ・子供は夢に向かって頑張っている事を認識し、現状の力を的確に把握するとともに、それを元に無理のない進路へ導いてあげてください。
- ・小さいことを気にしすぎず、普段通りの生活を大事にすることが大切だと思います。頑張りすぎないでください！
- ・親は食事、健康、環境を整えることしかできません。受験は子ども自身が頑張る。親は見守りましょう。もし、第一志望がダメでも、その時にベストだと思う選択をすれば良いのだと思います。
- ・プレッシャーや不安に押しつぶされそうになる時期もあると思います。子供も親も、ポジティブ且つリラックスできる雰囲気づくりを心掛けると良いと思います。
- ・子どもと一緒に過ごす日常がとても貴重で、1日1日がとても大切です。子どもさんと一緒に過ごせる時間を大切にしてくださいね。受験期は先が見えず本当に不安ですが、子どもさんの目標が叶いますように。一緒にいられるのもあと少しなんだと、受験を通して頼もしくなっていく我が子の姿を見られたことは子育ての醍醐味でした。
- ・それぞれ子どもの性格などで内容は違うかもしれませんが、必要になるサポートがそのつどあると思います。気持ちの面でも大変なこともあるでしょうが、あっという間に時間が過ぎてしまうのでなるべくその時々でサポートできる事はどんな事かなど事前に色々な情報を得たりするだけでも違うと思います。親も子も大変な時期になりますがなるべく悔いのない春を迎えられるよう一緒に頑張ってもらえたらと思います。

さいごに

このアンケートをとった際に、学生たちから「受験期は不機嫌なことが多く、親に嫌な気持ちをさせてしまったと感じ、後悔している。」「感謝の気持ちを言葉や態度にしないと伝わらない。もっと伝えるべきだった。」という声がたくさんありました。保護者のみなさんからのサポート・声掛けがその子にとって重荷になることもあります。それはほんの一部で、ほとんどが子どもたちの背中を押してくれるものであり、大きな力になります。ですから、それほど不安に思う必要は無く、お子さんを信じ、意思疎通を図りながらお互いが居心地の良い環境をつくっていきければいいですね。